

新聞部門

建設工事では、多様な重機を多数使用する。それを目的に合わせて最適に組み合わせて各機械の間にハーモニーを生み出す。そんな信頼性の高いソリューションを提供するという広告。画面一杯におおきな五線譜が描かれ、音符は各種の重機である。このビジュアルの発想と表現が、受賞の主因であろう。ともすれば、重く黒くならがちな表現が多いこの業種の広告のなかで、この軽やかなシヤレは貴重なものである。



第1席 日立建機

掲載日 6月28日/スペース 全5段

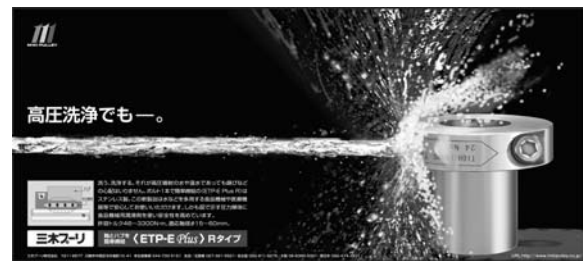
第2席

岩崎電気



掲載日 8月20日/スペース 全5段

第3席 三木プリー



掲載日 8月29日/スペース 全5段

スポーツ施設用投光器の広告。スポーツ照明は、影があっても困るし、眩しすぎて邪魔になるわけ、大切にしたいものというところを気づかせてくれる。画面ではいろいろなスポーツ選手たちが伸び伸びとプレーしている様子が、投光器のおかげでキレイなシルエットで表現されている。それだけで、この投光器の性能の良さが理解される。2020年も近い。同社のスポーツへの応援はますます重要になってくることだろう。

高圧噴射の水や温水を浴びても錆びない機械部品の広告。真横に飛び出す高圧噴射水の高速度カメラの写真はシャープで迫力があり、注目度も高く、これがこの広告の魅力だ。全5段というスペースは、紙面構成上便利なのかよく使われるが、デザイン的には高さがなく横ひろがり作りが難しい。しかしこの作品はその弱点を真事に逆用していいレイアウトになっている。さすがBtoBの名門広告主、企画設計の段階からよく考えられていると感心する。

選評

第4部

優れた発想と技術

編集記事に勝てる力

この部は、半段以上7段未満の大きさで、新聞事や他社広告と共存する。部門では、最小のスペースというところは、常に彼らと競争する宿命を負わされているわけである。編集記事は、専門分野に詳しい記者が書く。表現に十分に関係する。編集記事は、専門分野に詳しい記者が書く。表現に十分に関係する。編集記事は、専門分野に詳しい記者が書く。表現に十分に関係する。

多摩美術大学 名誉教授

田保橋 淳

この部は、半段以上7段未満の大きさで、新聞事や他社広告と共存する。部門では、最小のスペースというところは、常に彼らと競争する宿命を負わされているわけである。編集記事は、専門分野に詳しい記者が書く。表現に十分に関係する。編集記事は、専門分野に詳しい記者が書く。表現に十分に関係する。

第1席 スギノマシン



掲載日 7月23日/スペース 全14段連版

見事な彫刻作品を彫り出している職人の手。実際の現代の名工/伝統工芸士がモデルだという。「名工は第一刀を重んじる。」のヘッドライン。同社の水刃＝ウォータージェットカッターも同じのことで、「私たちが水刃に込めた思いも同じです。」とヘッドラインが続く。ウォータージェットカッターというと鋭さとか強さが連想されがちだが、実は名工の手技のような繊細さが必要だということをこのインパクトあるビジュアルが伝えてくれる作品である。

第2席 パナソニック



掲載日 3月9日/スペース 全15段

松下幸之助氏が大阪駅前陸橋の渡り初めをしているビジュアル。陸橋と何社？とのような関係が？と一瞬戸惑いも感じながら思わずボディーコピーを読んでしまう作品である。大阪駅前、今では当たり前のように渡っているあの陸橋が、実は大阪駅前の交通まひを緩和させたいという松下幸之助氏の願いにより、同社が協力して架けられたものだったのだという。同社創業100周年を伝えるこの広告で、創業者と社員の新たな面を知ることであった作品である。

第3席 明電舎



掲載日 12月22日/スペース 全15段

全15段の紙面に「電気よ、動詞になれ。」のヘッドライン。下部には「電気よ、」で始まる詩のようなコピー。15段の紙面を文字とコピーだけを使った面白い作品である。文字だけの広告というところがあるのはコピー・ヘビーな文字だけのものになるが、この作品は15段の紙面をぜいたくに使って、思わず口ずさみたくなるようなテンポのいいボディーコピーでまとめている。同社創業120周年を祝うにふさわしいすっきりとした作品である。

選評

モノクローム広告賞

アイデアで差別化

インパクトある作品に

新新聞部門モノクローム広告賞は、スペース制限なしで、白黒のシミ刷りとした募作品は、スペースの広いものから狭いものまでさまざまあり、またシリーズものもある。広告の色やスエない分、ユニークなアイデアを用いると他の広告と差別化できる作品が生まれてくる。第1席のスギノマシンの作品は、実際の現代の名工/伝統工芸士がモデルで見たものが松幸之助氏の願いにより、同社が協力して架けられたものだったことを同社創業100周年に合わせて伝えている。第3席の明電舎の作品は、全15段の紙面に文字とコピーだけを使った面白い作品である。紙面をぜいたくに使って、思わず口ずさみたくなるようなテンポのいいボディーコピーでまとめている。同社創業120周年を祝うにふさわしいすっきりとした作品である。

モノクローム広告賞

日刊工業新聞広告大賞



新聞部門 第1部 第1席

2018年 日本産業広告賞作品集



雑誌部門 第1席



情報誌部門 第1席

産業広告の頂点...

お申込み・お問い合わせはEメール (btob-ad@media.nikkan.co.jp) へ ※FAXでも承ります

2018年11月下旬発売予定

入賞全作品収録

●新聞部門 38作品 ●雑誌部門 6作品 ●情報誌部門 5作品

専門審査委員の選評掲載

- 嶋村和恵 審査委員長 (早稲田大学 教授)
- 田保橋淳 審査委員 (多摩美術大学 名誉教授)
- 中森陽三 審査委員 (東京アートディレクターズクラブ 会員)
- 石崎徹 審査委員 (専修大学 教授)
- 芳賀康浩 審査委員 (青山学院大学 教授)

●お問い合わせは...〒103-8548 東京都中央区日本橋小網町14-1 日刊工業新聞社事務局 日本産業広告賞事務局 tel.03-5644-7353

お申込みは FAXで 03-5644-7300

フリガナ	() 冊
氏名	
勤務先	所属
送り先住所	
〒	
TEL () - () - ()	FAX () - () - ()

フルカラー頒価 3,000円(税込み)送料別